

地名の歴史と由来／「成田西・成田東」の地名

幸田有美子(杉並区立郷土博物館分館)

ふたつの地名の変遷

「成田西」と「成田東」は、杉並区中央部にあり、その名のとおりに「成田西」の東側に、「成田東」があります。ふたつの町域は、江戸期には「成宗村」と「田端村」と呼ばれていました。

「成宗村」は、小字である「矢倉」が鎌倉時代からあった陣櫓を指し、この辺りをひらいた人物の柵跡であったとい



写真1「田端神社」(筆者撮影)

という説があります。この人物の名を成宗といい(『新編武蔵風土記稿』)、村名の由来に繋がったといわれています。また「田端村」は、田の端に勧請された「北野天神」の分霊が「田端天神」と呼ばれ、これが村名に繋がったといわれています。この天神は、村の鎮守「田端神社」(荻窪一丁目)のことです(写真1)。

さて地名の変遷の契機は、明治22年(1889)の町村制施行でした。両村は、「天沼村」「阿佐ヶ谷村」「馬橋村」と合



矢嶋又次画「成宗の泥富士」(杉並区郷土博物館蔵)

富士講のためにつくられた富士塚「成宗富士」が描かれている。「成宗弁財天社」(成田東一丁目)に大正7年頃まであった。

併して「杉並村」となり、かつての村名は、各々大字となります。更に、大正13年(1924)の町制施行では、「杉並村」が「杉並町」となりましたが、大字は、そのまま引き継がれました。

大字に変化が現れるのは、昭和7年(1932)の区制施行でした。「杉並町」は、「和田堀町」「井荻町」「高井戸町」と合併して「杉並区」となります。大字「成宗」は、「成宗一・二・三丁目」となりましたが、大字「田端」は、「東田町一・二丁目」と「西田町一・二丁目」となり※1、「田端」の名はここでなくなります。

最後の変化は、昭和44年(1969)の住居表示実施でした。「成宗一・二丁目」と「西田町二丁目」の各一部は、「成田西」となり、「松ノ木町」「成宗一・三丁目」と「東田町一・二丁目」の各一部は、「成田東」となって、現在に至ります。

のこされる古い地名

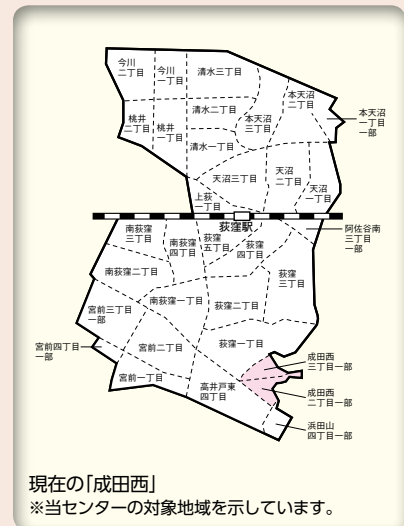
かつての村域を、現在の町域に当てはめてみると、古い地名が各所にのこされていることがわかります。例えば、村名の由来に繋がる小字「矢倉」は「屋倉橋」(成田西)、他にも「成宗須賀神社」(成田西)や「なりむね児童遊園」(成田東)「東田小学校」や「東田中学校」(成田東)などです。そして「荻窪一丁目」には、「田端神社」をはじめ、「西田小学校」や「西田端橋」もあります※2。このように施設名の中に、かつての地名がのこされています。

※1:「成宗村」の西側にある「田端村」が「西田町」、
「成宗村」の北東部にある「田端村」の飛び地が「東田町」となりました。

※2:「田端村」の村域である「西田町一丁目」が「荻窪一・二・三丁目」の一部となりました。

主要参考文献

『文化シリーズ19杉並の地名』(昭和53・杉並区教育委員会)



現在の「成田西」

※当センターの対象地域を示しています。